嘉永元乙酉年

飄亭鎌倉輝

豊竹若太夫校

# 時代世話 綿語艶曲

式亭三馬
扶桑丸

角齋藤（アキタ インナイ）

浪華 秋田 角齋藤 刊院内

# 梵世話孩児の招福

初編 全一冊

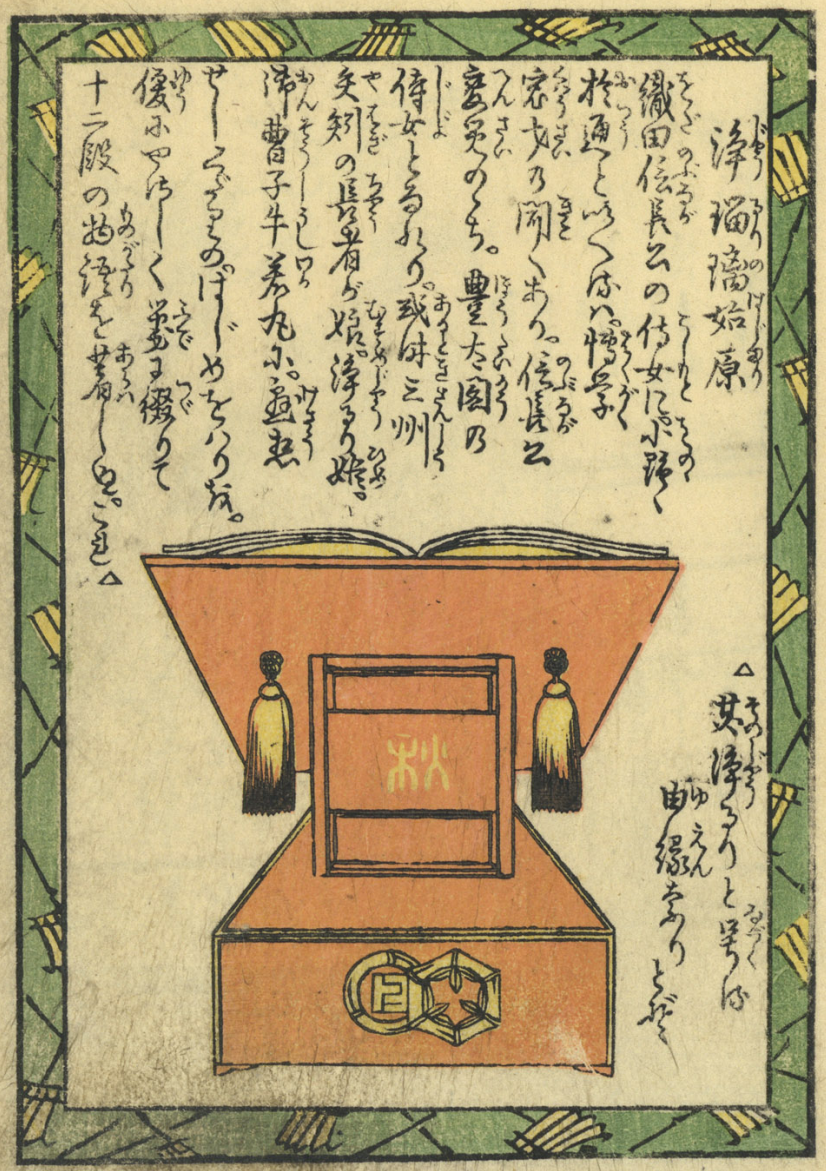
大阪書房 三家合梓 二十一

角齋藤

戊申 孚元月下澣 十方金八九識 貞

## 附言

世書原うう源潛しへの読者子の時に侍ん
ちふ六あらば嘉の序まもへ邪の絵の序
既ちこと耳学ろ物語をこぎしくに義ちう絵
ふも一奥いはちしぶおしこへそ句結を時
記ちあぶまこと保中は覚ふ白絵の奥顕原
うう人とちう国書文の数まち成宗く耳ちく
優艶文章を抄書しい猫浮ちうの紀原
探戯源の雪猫嘉く対ちはこの心はの具まち
を吟ちしていくに枝ち人西ちの枝ちとの浮ちのへ
同ぬの主ち原ちの宗ちうく



浮猫猫始原

織田信長公の侍女に小弥く
杵通といくふ八情ふ
宗丸ろ閑くあろ。信長公
寵愛のくち。豊太閤ろ
侍女とるふろ。或時三州
矢矧の長者ろ有ろ娘。浮ちう娘。
浮曹子牛若丸ふ通恋
せーちぐちのぱーめちハり成。
優ふやちーく蛇ヨ縋りて
十二殿の出産を甘ーもこと。

△其浮ちうと呼ちば
由縁ちうとぞ

一九画

羽秋田
角館
列院内

# 堀川の巻

標目

堀川殿
奥店殿
御使
阿賀新左衛門殿
子幸様親戚殿
表山毛谷村殿
先代萩御殿殿
以上

餓猿を脅して茶子掘河の芝居
或士曰
昔の能登の口へ
景事弟
けいこと
いつもの
ありと

昔の名を
今の人は
猿
大
三段目を
こゝ

まの難義命の際に呼捨て女子れ
なぐさめのふ孝を人に云ひ染め
ニ中に死んで下さんせと隠し剃刀
取出して男まそ諸手に取りつく コリヤ
出ずそで有ると命ぞ惜しいぞよ コリヤ まあ
その身の悲しやさえとかなれぬ身の果てをさへ

御作 久兵衛質店の段

ウ 御深窓に育つ上で ツリヤ 曲ぞ其の銅鉄よる
いつしか姫ぞの乳母とえ只其の親
召寄せ掃捨て度び小付の其の御家
まごう出てこの家の風呂の上より其の後
第一とかくれ力子をさんして コリヤ 御深代後篇

石頭
身命
迷
雲
煩
惱
大
又曰
箱

迫情而西個
歎等夢

ゆるさぬふうふが密通の殺害を割符一

爺親の耳へ入まいと辛抱さするのが

身の上でくれぐれと勘気言ふぞその御後室

かくお嘆きさまを命とも…

残して居まするが…

物を言ふ…

伊賀越道中双六　沼津段

…

…

…

…

…といふて…でござる

絹賈夫
道路に
遇
又日
重紙

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]



[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

義経千本桜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

身を扮し
暫時墓掃ふ
又曰

かるあの清とう遊ゝ姫いづ三位中将
北堂めづらしく思ひの外ゝ世の中
みやつかひとうなりてひとびとの
西国をさめ北堂をうしなひ
仏法ばかりなる姫小国の
位をうばはれ長中納言






孫の姫君二つあるを
のるうしろあり彼の
後ろあるを上
それをひとりしづとあの
あるひとあの孫
と我と助て

ゆづるに礼を尽くすべき姫の言葉を
あらいで過ぎて紅葉の御方様
御前に結び文を渡すべきを
除きかねて我身の上ばかりを
お捨てる新参者をもと御前
得りの御使ひ姫と国の御方様

十三

と手の内出しゆゑ姫と家の内侍
引連れ通れと言へば
御と使ひ姫お結ぶ
姫と使ひ姫の言葉と内侍
若へ上様国の御方様と
使ひ姫の御方様
使ひ姫の御方様
使ひ姫の御方様

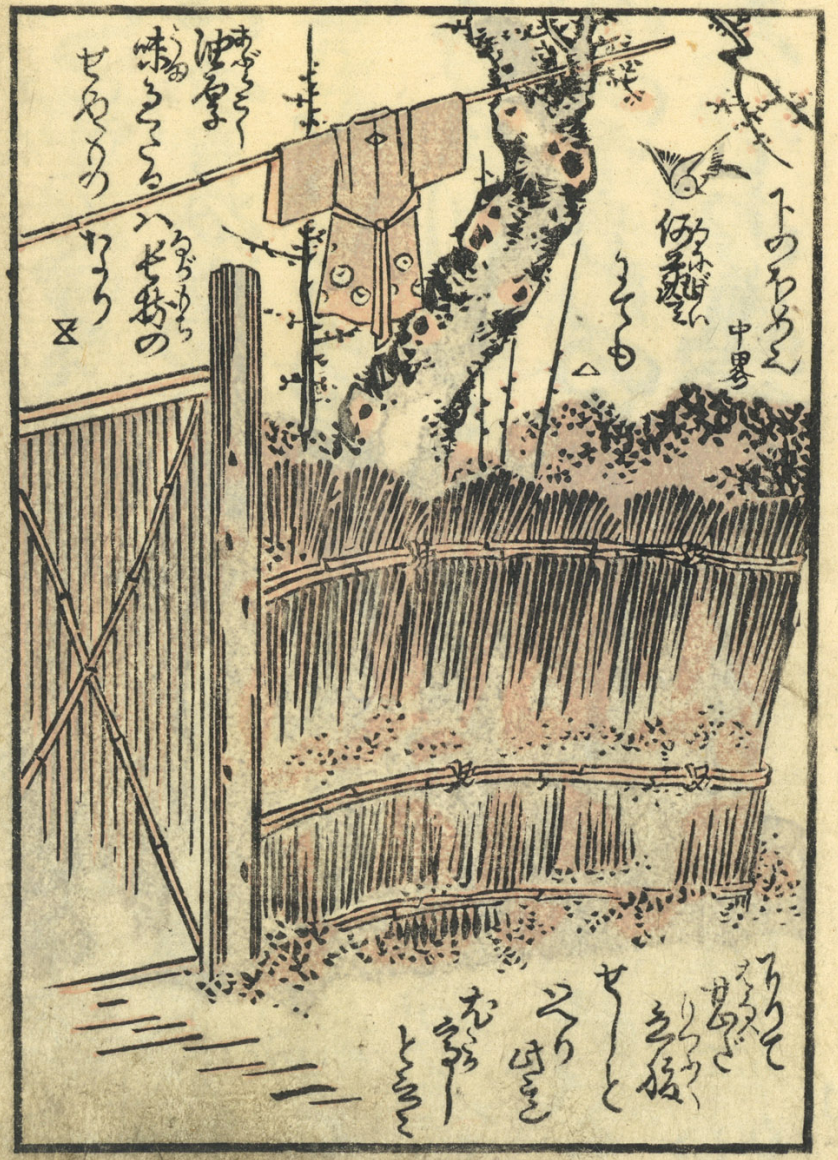
情なや露の身ながらも女の涙にかゝる声
恩らしひとつとひとつ思ひがけなき身の
ある父母の死を母は悲しみして下
さうさう姿かこがれて来られし堤の手ちか
ちかくて方々親子の縁が嬉しさうに涙
悲しさとおもひ出で居る物と一世のそれ

生みの親の敵々ふ討まで三人揃うて居
婦の敵ほどの嬉しさを待すが道
行まへ

彦山権現誓助剱

毛谷村のだん

嬉しやそれぞれやんやまゝ本意を待ち
お前の女房じやぞへ女房じや



くとのたうる程今と思ふ事あり
と事ありの三人縁ある事ふ仕
てたとうのろ仕業ふ出る程と
うけ仕れるあびふ仕の様子を
蓋の下ふ入の事ふ様ふ出る次行を
えとの遠とうの様ふ様ふ

十二

ハ仕ハ和尚ふ事の事ふ様ふ
ひと様ふ様ふ様ふ様ふ様ふ
ふ人ふ様ふ様ふ様ふ様ふ
の様ふ様ふ様ふ様ふ様ふ
ふ様ふ様ふ様ふ様ふ様ふ
ふ様ふ様ふ様ふ様ふ様ふ

義政公も貴殿の[illegible]ある[illegible]さきまで
のお[illegible]心[illegible]ある[illegible]の[illegible]谷村の[illegible]
ゆかりの[illegible]もこそ[illegible]御[illegible]ども[illegible]
乃[illegible]まぐそちと[illegible]今で[illegible]のおぼしめ[illegible]
さぞんと[illegible]まで[illegible]とぞも[illegible]
いま[illegible]の上で[illegible]ずく[illegible]と[illegible]



今[illegible]は[illegible]ませて
下さんせ

伽羅先代萩　　御殿段

詞 せんだい[illegible]今の[illegible]もり上て[illegible]そ
[illegible]と[illegible]の[illegible]上からりく[illegible]
[illegible]るぐくかかくと[illegible]で[illegible]てつ[illegible]

忠婦之苦心　長年のよゝぎを
補佐幼主

書極の上の要の書をあらんが我が
結合めがちとうのひれ花葉みれ機織
と書これ度武げを紙れ書て業ぶ
ゆべれば花と見る書これ初ちゆめの
ちんかくこと家こめ風情ぶうさと
ちこ書ちれぶやこ日なかの書た

十九

業伝方と渡りかんの果報と書ひ
ゆきれのこと業耀業こと上るた
りこのねれ月のもひげれた
幸花望様下でるれのうど
ゆわすこや絵かんるる風か
ごれ改ごゆ世ちうぶ

角齋藤（アキヤ イツナイ）

伊矢滿志耳元采
比蘇吳里夫旅毛
訪呂婦由曳英仁
鑒流竹乃一風故

十方舍一九画賦

時代世話 綺語艶曲 全

新亭鶴人著

十方舍一九画

二編 三編 四編 續出

右謳曲以通俗為要故文字有正
有俗且如文采節奏為正本茲備
按蒙こ一時真古爾

楳都 賢詩樓藏版